

第2章 推進体制

県政運営の基本的な考え方を示す「くまもと新時代共創基本方針」と、その実現に向けた具体的施策をまとめた「くまもと新時代共創総合戦略」を、まち・ひと・しごと創生法に基づく熊本県の総合戦略として位置付け、地方創生の取組みを推進します。

推進に当たっては、県民の理解と信頼を深め、協働した取組みを進めるため、「くまもと新時代共創総合戦略」に掲げた4つの柱について、分かりやすい指標(重要業績評価指標：KPI^{※40})を用いて進捗状況を可視化し、毎年度、公表します。

その上で、計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(action)の【PDCA マネジメントサイクル】により、継続的な改善を図りながら、成果重視の県政運営を行います。

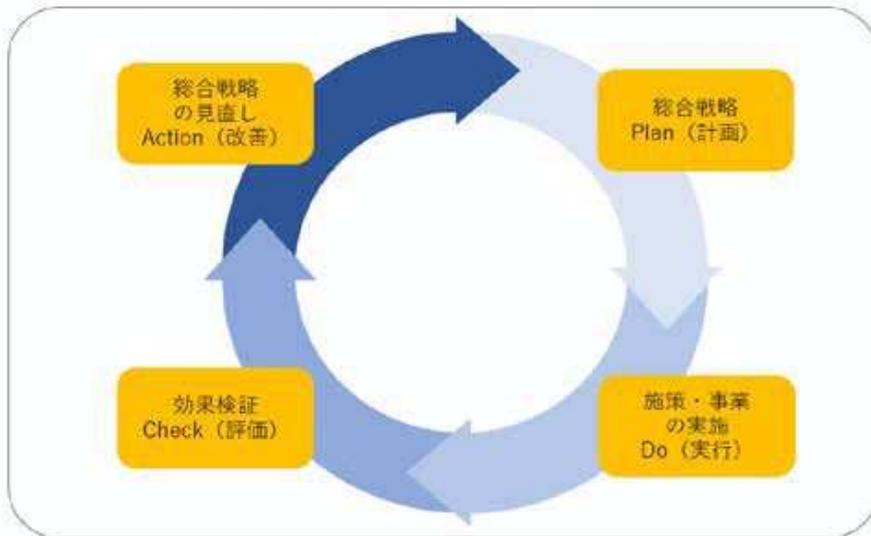
一方、個別の施策を効果的なものとするには、社会環境や県民ニーズの変化、災害の発生、国の制度改正などにスピード感を持って対応することが不可欠です。「くまもと新時代共創基本方針」の実現に向けて、状況に合わせて、柔軟に対応するため、観察(observe)、情勢判断(orient)、意思決定(decide)、行動(act)の【OODA(ウーダ)ループ^{※41}】の考え方にに基づき、迅速・機敏に(アジャイル)、施策の見直しと事業の検討を進めていきます。

外部有識者等の参画による効果検証も行いながら、更なる施策の充実、展開につなげていきます。

※40 施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(Key Performance Indicator)

※41 観察(observe)、情勢判断(orient)、意思決定(decide)、行動(act)の4段階をループする考え方。現状を観察し、確認できた情勢から予測や判断を行い、素早く決断、実行へと行動する理論。PDCAサイクルが「計画」を重要視するのに対して、OODAループは、「情勢判断」を重要視するため、臨機応変な対応が可能という特徴がある。

<総合戦略の効果検証（PDCAサイクル）>



<施策・事業の効果検証（OODAループ）>



第3章 重要業績評価指標 (KPI) 一覧

施策	評価指標	現状 (R5 (2023))	目標 (R9 (2027))	
こどもたちが笑顔で育つ熊本	こども・若者がキラキラ輝く社会づくり	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある児童生徒の割合 小学校(公立) 47.2% 中学校(公立) 38.8%	小学校(公立) 中学校(公立) ともに 55.0%	
		「こどもまんなか熊本」の実現を進めるべきと強く思う県民の割合	—	55%
		こどもの居場所の数(こども食堂)	170カ所	230カ所
	家庭や子育てに夢を持てる社会づくり	子育てができる・したいと思える環境が整っていると感じる県民の割合	—	70%
	質の高い教育・未来を担う人材の育成	「授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と思う児童生徒の割合(小中学生)	小学校(公立) 74.8% 中学校(公立) 73.3%	毎年前年度を上回る
		探究的な学びにおいて、整理や分析を踏まえて、自分の考えを分かりやすくまとめ、発表した生徒の割合(高等学校)	86.5%	100%
		地元自治体や企業・大学等と連携した教育活動の回数(年20回)を達成した学校の数	50校中26校(52%)	50校中40校(80%)
		①30歳未満の旅券発行率 ②15歳以上30歳未満の出国率	①3.30% ②8.57%	①4.3% ②17.8%
		生徒の英語力 (中学3年生でCEFRのA1レベル相当(英検3級など)以上を達成した生徒の割合 高校3年生でCEFRのA2レベル相当(英検準2級など)以上を達成した生徒の割合)	中3 46.6% 高3 43.1%	中3 60% 高3 60%
	世界に開かれた活力あふれる熊本	「くまもとで働く」人材の確保・育成	新規学卒就職者(県内高校)の県内就職率	66.1%
ブライト企業に就職した新卒学生数			6,991人/4年	8,300人/4年
世界に伍する産業拠点熊本の創出		製造品出荷額	3兆4,785億円/年(R4(2022))	4兆5,400億円/年
		半導体関連産業生産額	1兆2,028億円/年(R4(2022))	1兆5,130億円/年
		企業立地件数(立地協定締結)	53件/年(過去5年平均)	55件/年
		IT関連産業の売上高	708億円/年(R3(2021))	1,060億円/年
		UXプロジェクトにおける新事業創出に向けた伴走支援数	16事業/4年	20事業/4年

施策	評価指標	現状 (R5 (2023))	目標 (R9 (2027))
世界に伍する産業拠点 熊本の創出	県の施策を通じて創業・第二創業を行った企業数	20 社/4年	24 社/4年
	県の施策を通じてデジタル技術を活用した県内企業(製造業)の新たな取組み件数	85 件/4年	104 件/4年
	DXに取り組んでいる企業の割合	44.9%	75.0%
	エリア・データ連携基盤を活用した民間事業者数	0 事業者	24 事業者
	県内港国際コンテナ貨物取扱量	33,857TEU/年	45,200TEU/年
	地域日本語教室設置市町村数	15 市町村	19 市町村
	くまモン関連商品売上高	累計 1 兆 4596 億円	累計 2 兆円
「食のみやこ熊本県」 の創造	6次産業化関連販売金額	861 億円/年 (R4(2022))	931 億円/年
	農林畜水産物等の輸出額	122.4 億円/年	140 億円/年
	農林畜水産業の新規就業者数	503 人/年 (R4(2022))	618 人/年
	農業分野における外国人材(技能実習生、特定技能外国人材)の受入人数	5,457 人	7,000 人
	稼げる農業経営体(販売金額 1,000 万円以上)の割合	22.7%	28.0%
	水稻栽培におけるスマート農業活用面積の割合	25%	35%
	スマート林業技術等を導入した事業者の割合	18%	30%
	スマート養殖技術を導入した事業者数	6 事業者	12 事業者
スポーツ、観光、文化 芸術の振興	農福連携コーディネート事業でのマッチングにおける福祉事業所の新規契約件数	19 件/年	75 件/4年
	観光消費額	3,172 億円/年 (R4(2022))	3,750 億円/年
	国際スポーツ大会開催による誘客数	約 40,000 人/年	42,000 人/年
	外国人延べ宿泊者数	100 万人/年	110 万人/年
	富裕層向けクルーズ船の寄港数	5 回/年	25 回/年
	スポーツ実施率(週 1 回 30 分以上運動する割合)	57.3%	70%
交通の利便性向上	若手芸術家海外チャレンジ事業を活用した海外への派遣者数	58 人	78 人
	路線バスの年間利用者数	2,449 万人	3,000 万人
	渋滞時における自動車の平均旅行速度	18.6km/h	20.0km/h

世界に開かれた活力あふれる熊本

施策		評価指標	現状 (R5 (2023))	目標 (R9 (2027))
世界に開かれた 活力あふれる 熊本	交通の利便性向上	セミコンテクノパーク周辺の渋滞解消に寄与する道路整備の進捗	11.9km (延長・車線数)	20km (延長・車線数)
		阿蘇くまもと空港国際線旅客者数	約 23 万人/年	86 万人/年
いつまでも続く豊かな熊本	豊かな自然の保全	半導体関連企業の集積を見据えたかん養対策によるかん養量	200 万 m ³	1,000 万 m ³
		廃棄物の再生利用率	18.1% (R4(2022))	28.0%
	移住定住、関係人口創出	国内間の社会増減	△1,624 人	R5(2023)の実績値を維持
		くまもと移住定住・UIJ ターン就職支援センター登録者における UIJ ターン就職者数	445 人/4 年	520 人/4 年
	魅力ある地域づくり	阿蘇草原の面積(牧野における野草地面積)	14,850ha	14,850ha
		各地域の未来像の実現に向けた取組みの件数	—	10 件
社会の多様性	固定的性別役割分担意識に同感しない県民の割合	82.9%	85.0%	
県民の命、健康、安全・安心を守る	「緑の流域治水」を核とした創造的復興	球磨川水系河川整備率(県管理区間)	47.4%	52.8%
	災害に強い県土づくり	高規格道路の整備進捗率	50.7%	55%
		緊急輸送道路の防災点検要対策箇所の整備箇所数	50 カ所	55 カ所
		土砂災害特別警戒区域からの住宅移転数	72 件/4 年	80 件/4 年
		田んぼダムの取組み面積	617 ha	770 ha
		県が育成した防災士の資格取得者数	1,759 人	2,300 人
		自主防災組織の定期的な活動率	68.8%	80.0%
	健康で長寿な社会の実現	日常生活動作が自立している期間の平均 (介護保険の要介護1以下の状態を日常生活動作が自立しているとみなし、その状態を維持できる年齢の平均(≒健康寿命))	男性：79.9 歳 女性：84.2 歳 (R4(2022))	男性：80.4 歳 女性：85.0 歳
		看護職員数	34,868 人 (R4(2022))	37,900 人
		介護職員数	32,297 人 (R4(2022))	37,228 人
		介護ロボット・ICT 機器を導入している入所系施設の割合	44.4%	60%
		くまもとメディカルネットワークに参加している県民数	119,269 人	240,000 人
	包括的な支援体制を構築している市町村数	10 市町村	45 市町村	

施策		評価指標	現状 (R5 (2023))	目標 (R9 (2027))
安全・安心を守る 県民の命、健康	健康で長寿な社会の実現	新興感染症対応に係る確保病床数	0床	1,131床
		新興感染症対応に係る発熱外来対応機関数	0機関	777機関
	安全・安心の地域づくり	刑法犯認知件数	6,174件/年	前年比減
		交通事故死傷者数	4,177件/年	前年比減

<県民みんなが安心して笑顔になり、持続的で活力あふれる熊本の実現>

評価指標	現状 (R5 (2023))	目標 (R9 (2027))
<p>幸せだと感じている県民の割合(県民アンケート)</p> <p>※県では、幸せの実感には、「夢や希望を持てる基盤があること」「地域への誇りがあること」「経済的なゆとり、心のゆとりがあること」「健康や生活環境面で将来に不安がないこと」の4要素が必要と考えています。</p> <p>※これを基に県民アンケート調査で、幸福の実感についてお尋ねしており、「感じている」又は「やや感じている」の回答割合を指標に用いています。</p>	73.8%	前年比増

(参考)用語解説

○ アーバンスポーツ (P53)

都市型スポーツ。スケートボードやスポーツクライミングなどの都市住民が参加しやすいスポーツの種類。

○ アグリテック (P50)

農業へAI・ロボット等先端技術を活用すること。

○ インクルーシブ教育 (P41)

障がい者の権利に関する条約第24条によれば、「直訳：包容する教育制度」として、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ仕組みをいう。

○ オープンデータ (P47)

行政機関等が保有するデータを誰でも容易に二次利用できるよう、機械判読に適した形式に加工して公開すること。

○ 熊本地震震災ミュージアム (P68)

県内各地に点在する震災遺構や拠点を巡る回廊形式のフィールドミュージアム。

○ 熊本地震震災ミュージアムKIOKU (P53)

旧東海大学阿蘇キャンパス（南阿蘇村）にある体験・展示施設。

○ 熊本の心 (P42)

小中学校等で用いる本県独自の道徳教育用郷土資料。

○ 熊本の学び (P40)

熊本の全ての子どもたちが、「学ぶ意味」を問いながら、「能動的に学び続ける力」を身に付けることを目指す理念。

○ くまモンランド化構想 (P49)

世界中でくまモンが愛され、県全体をくまモンの魅力あふれる場所にするこで、ひと・モノ・企業が熊本に集まるようになるという考え方。

○ グリーフケア (P38)

悲しみを抱える遺族に寄り添いサポートすること。

○ ゲートキーパー (P71)

自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)を図ることができる人のこと(厚生労働省HPより)。

○ 国際バカロレア教育 (P42)

国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラム。所定の成績を収めると、世界標準の大学入学資格である国際バカロレア(IB)資格が取得できる。

○ サーベイランス検査 (P51)

病原体の分離・同定など感染症の動向を監視するために行う検査。

○ サイバー空間 (P71)

インターネットなどの仮想空間のこと。

○ サプライチェーン (P45)

ある製品が、原料の段階から消費者に至るまでの全過程のつながり。供給網。

○ 三次元積層実装 (P45)

複数の半導体チップを垂直に積み重ねることにより、高速通信や省電力化を実現する技術のこと。

○ 自動車1割削減、渋滞半減、公共交通2倍 (P56)

自動車の交通量が1割減ると、渋滞が半減する(速度が向上する)という効果が見られている。このキーワードは自動車の利用を減らし渋滞を減少させるために、公共交通の利便性を高めて利用者を2倍にすることを表す。

○ 新大空港構想 (P58)

阿蘇くまもと空港とその周辺地域を一体のものとして「大空港」と捉え、空港周辺地域の将来像を描き、その実現に向けた取組みを推進するグランドデザイン。

○ **スーパーティーチャー** (P40)

高い指導力を有し、他の教員の指導や研修会の講師を担当する教員。

○ **スクールガード** (P38)

学校で子どもたちの見守り活動を行う学校安全ボランティア。

○ **スクールカウンセラー** (P40、41、71)

児童生徒へのカウンセリングなどのため、臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有する者。

○ **スクールソーシャルワーカー** (P40)

いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行う社会福祉等専門職。

○ **スタートアップ** (P44、46、50)

ビジネスを立ち上げること。新たな技術をベースとした製品やサービス等を提供する新興企業。

○ **地域デザイン機能** (P70)

地域包括ケアシステムの深化・推進を図るため、令和 22 年(2040 年)をイメージした地域ビジョンを設定し、その実現に向けて、既存資源を生かした施策展開及び事業実施に取り組むこと。

○ **データ連携基盤** (P47、77)

様々なデータを連携させて目的等に応じた幅広いデータの収集・加工を容易にするためのデジタルインフラ。

○ **フードテック** (P50)

食ビジネスへ AI・ロボット等先端技術を活用すること。

○ **保育所等におけるインクルージョン** (P37)

障がい児が障がい児支援を利用し、保育、教育等の支援を受けることができるようにすることで、障がいの有無にかかわらず、施設利用の対象となる乳幼児全てが共に成長できるよう、活動等への参加や包容が十分に達成されていること。

○ ヤングケアラー (P38)

家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められるこども・若者。

○ AI (P47、49)

Artificial Intelligence の略。人工知能。

○ AI デマンドタクシー (P39)

AI を活用した予約型運行形態によるタクシーサービス。

○ DMO (P53)

Destination Management Organization の略。多様な関係者と協同しながら観光地域作りを行う法人。

○ DX (P41、44、45、47、48、49、54、69、77)

デジタルトランスフォーメーション、デジタル技術を活用した変革。

○ ICT (P38、40、41、49、69、78)

Information and Communication Technology の略。情報通信技術。

○ IoT (P47、48)

Internet of Things の略。「モノのインターネット」。あらゆるモノがインターネットに接続される仕組みのこと。

○ JASM (P45)

半導体製造会社「Japan Advanced Semiconductor Manufacturing」(JASM)。

○ KPI (P74)

施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標(Key Performance Indicator)

○ M&A (P47)

Mergers and Acquisitions の略。企業の合併と買収。

○ MICE (P54)

Meeting(会議)、Incentive Travel(報奨・研修旅行)、Convention(国際会議、展示会・見本市)、Exhibition/Event(イベント)の頭文字による造語。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

○ OODA ループ (P74)

観察(observe)、情勢判断(orient)、意思決定(decide)、行動(act)の4段階をループする考え方。現状を観察し、確認できた情勢から予測や判断を行い、素早く決断、実行へと行動する理論。PDCA サイクルが「計画」を重要視するのに対して、OODA ループは、「情勢判断」を重要視するため、臨機応変な対応が可能という特徴がある。

○ RE100 (P60)

Renewable Energy 100%の略。企業が自らの事業の使用電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す率先行動。

○ UIJターン (P41、60、78)

Uターン(都市部へ移住したものが再び故郷へ戻ること)、Iターン(故郷とは別の地方に移ること)、Jターン(地方から都市部へ移住した後、故郷のほど近いところに戻る)からなる造語。